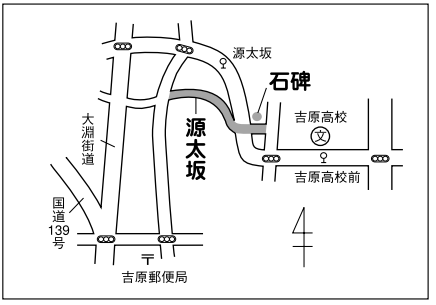
源太坂

平成十二年九月五日号

吉原高校の西百メートル付近の丘から、西へ向かう下り坂があります。この坂の中ほどには「源太坂」という碑があり、源頼朝の家来で、有能な二人の武将梶原源太景季（かげすえ）と、佐々木四郎高綱（たかつな）の馬比べの物語を伝えています。

源氏の大軍が、京都に向かうときの話です。そのころ頼朝（よりとも）は、生食（いけづき）と磨墨（するすみ）という二頭の名馬を持っていました。梶原源太景季は、頼朝に「私に生食をください」と願い出ましたが、生食をもらうことはできず、やっとのことで磨墨をもらいました。しかし、後から頼朝にあいさつに行った佐々木四郎高綱が「私に生食をください」と願い出たところ、頼朝は案外簡単に生食をくれました。

それを悔しく思った景季は、今泉の小高い丘で高綱を待ち構え「殿から生食をもらってきたのか」と、問い詰めました。差し迫った気配を感じた高綱は、笑いながら小声になって「あなたが欲しいとお願いしてもだめだった生食を、私などがお願いしても、とうていもらえる望みはないと思ったので、昨日の明け方、そっと盗んできたのだ」と言いました。それを聞いた景季は、急に顔を和ら



げて「そうだったのか。ならば私も盗めばよかった」と笑いながら引き揚げていきました。

その後、生食と磨墨の二頭の名馬は、宇治川の先陣争いで互いに競い、立派な手柄を立てたそうです。

増田みつ子さん（国久保一丁目）
増田　徹夫さん（国久保二丁目）

馬比べの話は直接聞いたことはないのですが、源太坂の石碑は源平の戦いを伝える碑だと聞いたことがあります。

現在は、吉原高校の前から続く広い道を源太坂と呼んでいますが、昔は、石碑の前を通り西側（国久保一・二丁目）に下る狭い坂のことを言いました。今では舗装もされてきれいな道になりましたが、昔は大きな岩や石が飛び出したような、ごつごつとした歩きにくい道でした。道幅も、今の半分くらいだったと思います。あたり一面は田畑で、道の周りにはサトウキビなどが植えてあり、家などは全くありませんでした。街灯がなかったので、夜歩くのはとても怖かったです。数人で肩を組みながら歩いたりしました。

しかし、高台には段々畑や梅林が広がり、北には富士山、坂の下は広く開けた平野で、とても眺めのよいところでしたよ。

◀ 昭和二十年代の源太坂

▲ 現在（平成 12 年）の石碑（右）とその付近の様子